

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

平成25年6月26日

大分県知事 広瀬 勝貞 殿



提出者 〒870-1124

住 所 大分県大分市大字旦野原700番地

氏 名 国立大学法人大分大学

学長 北野 正剛

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 097-569-3311 (代)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	大分大学医学部
事業場の所在地	大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地
計画期間	平成25年4月1日 ~ 平成26年3月31日 (1年間)

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	教育・学習支援業及び医療・福祉
② 事業の規模	618床
③ 従業員数	1,708人
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	別添フロー図のとおり

(分) 様式第2号

(表面)

特別管理産業廃棄物処理計画						
事業場の名称	大分大学医学部					
所在地	大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地					
事業の種類 【日本標準産業分類】	教育、学習支援業及び医療、福祉					
(1) 事業の概要						
イ 資本金	31,061,159千円					
ロ 従業員数等	総数	1,708人	内正社員数	1,216人	病床数	618床
ハ 製造品出荷額等 又は元請完成工事高等	千円					
ニ 前年度の特別管理産業廃棄物の種類・発生量	種類	感染性産業廃棄物 廃油 廃酸		発生量	213.7 t	
ホ 製造概要又は 建設工事請負実績						
ヘ 事業展望						
ト 連絡先(担当者)	所属部署	医学・病院事務部経営管理課用度第二係		TEL	097-586-5360	
	氏名	佐藤 繁久		FAX	097-586-5219	

(2) 策 定 事 項	
イ 計 画 期 間	平成25年4月1日～平成26年3月31日 (1 年間)
ロ 特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	・感染性廃棄物の特別管理産業廃棄物管理責任者は病院長を指定し、また、その他の特別管理産業廃棄物管理責任者は事務担当者が担当し、特別管理産業廃棄物の適正な管理に努めている。
ハ 特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項	・「大分大学医学部感染性廃棄物処理計画」を作成する等排出の抑制に努めている。
ニ 特別管理産業廃棄物の分別に関する事項	・「大分大学医学部廃棄物処理規程」により原点分別、原点処理のための必要な事項を定めている。
ホ 特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項	・医療業のため医療現場から排出される感染性廃棄物について、再生利用は現時点では困難である。なお、医療廃棄物の内、非感染廃棄物の分別・リサイクルについて、今後の課題として検討中である。
ヘ 特別管理産業廃棄物の処理に関する事項 (上記に関する事項を除く)	・原点分別・処理された廃棄物は、種類毎に分別容器に区分し、学内の廃棄物保管庫に収集し、定期的に委託業者が学外に搬出、中間・最終処分を行っており、搬出の都度マニフェストによる確認を行っている。
ト 特別管理産業廃棄物を適正に処理するために講じようとする措置に関する事項	・廃棄物を適正に処理するためには、廃棄物が発生する場所での分別を厳密に行う事が必然であり、容器の色やバイオハザードマークで分かり易いように表示し原点での分別を行っている。また、毎年、研修医のオリエンテーションで「医療廃棄物の取扱いについて」という題目で分別処理の研修を行っている。

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

感染性廃棄物の特別管理産業廃棄物管理責任者は病院長を指定し、また、その他の特別管理産業廃棄物管理責任者は事務担当者が担当し、特別管理産業廃棄物の適正な管理に努めている。

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（平成24年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性産業廃棄物	廃油	廃酸
	排 出 量	211.2 t	2.4 t	0.1 t
	(これまでに実施した取組) ・「大分大学医学部感染性廃棄物処理計画」を作成する等、排出の抑制に努めている。			
② 計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性産業廃棄物	廃油	
	排 出 量	210 t	2.4 t	
	(今後実施する予定の取組) ・引き続き現状を維持する。			

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・「大分大学医学部廃棄物処理規程」により原点分別、原点処理のため必要な事項を定めている。
② 計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・引き続き現状を維持する。

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	_____	_____
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	(これまでに実施した取組) _____		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	_____	_____
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	(今後実施する予定の取組) _____		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	_____	_____
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
(これまでに実施した取組) _____			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	_____	_____
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
(今後実施する予定の取組) _____			

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	_____	_____
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	(これまでに実施した取組) _____		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	_____	_____
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	(今後実施する予定の取組) _____		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

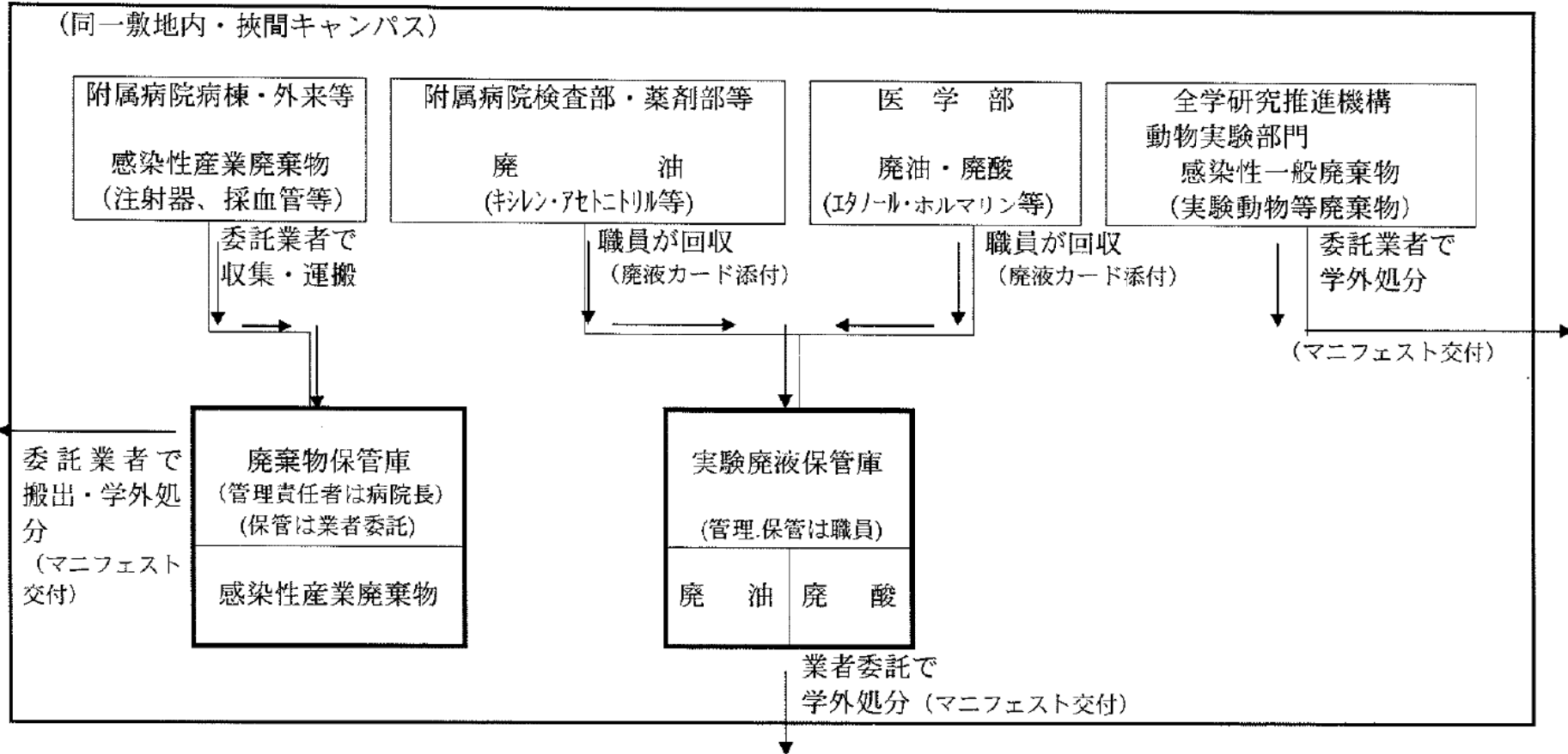
①現状	【前年度（平成24年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性産業廃棄物	廃油	廃酸
	全処理委託量	211.2 t	2.4 t	0.1 t
	優良認定処理業者への処理委託量	_____ t	_____ t	_____ t
	再生利用業者への処理委託量	_____ t	_____ t	_____ t
	認定熱回収業者への処理委託量	_____ t	_____ t	_____ t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	_____ t	_____ t	_____ t
	(これまでに実施した取組) ・原点分別・処理された廃棄物は、種類毎に分別容器に区分し、学内の廃棄物保管庫に収集し、定期的に委託業者が学外に搬出、中間・最終処分を行っており、搬出の都度マニフェストによる確認を行っている。			

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性産業廃棄物	廃油
	全処理委託量	210 t	2.4 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	_____ t	_____ t
	再生利用業者への 処理委託量	_____ t	_____ t
	認定熱回収業者への 処理委託量	_____ t	_____ t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	_____ t	_____ t
(今後実施する予定の取組)			
・引き続き現状を維持する。			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。

特別管理産業廃棄物の発生・処理フロー図



ゴミの分別表



ゴミの種類	マーク	袋の色・容器等	おもな例	その他の例
一般 ビン・カン			ビン カン スプレー缶 (穴をあける) 陶器	化粧ビン
医療・実験 ビン・カン	+	 プラスチック容器	薬品のビン アンプル	
燃えるゴミ		青	紙くず ティッシュペーパー 紙コップ 生ゴミ	台所から出るゴミ類 ペーパータオル 布くず
リサイクル ゴミ			使用済み コピー用紙 封筒 OA用紙	シュレッダー紙 紙箱
古紙類 (資源ゴミ)	無	病棟は専用容器 その他は紐で十文字 に縛る等して出す	新聞紙 段ボール 雑誌類	新聞のチラシ
プラスチック類		緑	ペットボトル トレー 弁当ガラ 点滴ボトル	カップ麺の容器 発泡スチロール ビニール類
【感染性廃棄物】 血液等が付着した もの		赤 バイオハザードマーク	輸血パック 針なし 注射器 針なし 抗ガン剤 点滴ボトル ガーゼ・包帯等	採血管 紙おむつ
【感染性廃棄物】 注射針等の鋭利な もの		耐貫通 性容器 バイオハザードマーク	針つき 注射器 翼状針 ルートつき 抗ガン剤ボトル メス等	通常の輸液ルート 留置針・生検スネア
有害物	無	破損の おそれのない 容器	乾電池 ボタン電池 蛍光灯等	電球